

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

- 分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験 -

1. 今後の見通し

予測期間：2002年10月下旬から12月上旬まで

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量：10月下旬は前年並みのやや低位の水準で推移する。11月上旬に減少傾向となり、11月中旬以降は魚群の逸散のため極めて低位の水準となる。
- (2) 漁場：漁場は10月下旬以降襟裳岬沖合の潮境周辺に形成される。11月中旬以降の漁場形成は散発的となる。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量：来遊量は10月下旬以降中位の水準で推移する。11月中旬には減少傾向となり、11月下旬は低位の水準で推移し、12月上旬には断続的となる。
- (2) 漁場：漁場は、10月中は南北に分散して形成され、11月上旬以降は南部の海域に偏る傾向となる。12月上旬には散発的な漁場形成となる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量：10月下旬には低水準の来遊が継続し、11月上旬にやや増加傾向で推移する。11月中旬には増減傾向となるが、下旬には中位の水準で推移する。12月上旬には減少する。
- (2) 漁場：常磐南部から鹿島灘の海域に漁場が出現し、後続群が順次加わり、前年とは異なり比較的長期にわたり犬吠埼周辺に漁場が形成される。

2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量	→	↘	---		
	動向	低位水準	低位減少	断続的		
	漁 場	襟裳岬沖合	襟裳岬沖合	散発的		
三陸海域	来遊量	→	→	↘	→	---
	動向	中位水準	中位水準	中位減少	低位水準	断続的
	漁 場	北部～南部	南部	南部	南部	散発的
常磐海域	来遊量	→	↗	↘	→	↘
	動向	低位水準	低位増加	減増的	中位水準	急減傾向
	漁 場	常磐～鹿島灘	鹿島灘 犬吠埼周辺	鹿島灘 犬吠埼周辺	鹿島灘 犬吠埼周辺	鹿島灘 犬吠埼周辺

3. 漁況の経過概要

(10月上旬)

10月上旬の漁況経過の特徴は、前半には台風の影響等があり好漁場が形成されなかったが、後半には東方沖合から今漁期最高の後続群の来遊があり、落石～釧路沖合に好漁場が形成された。一方、三陸沖合でも散発的ながら漁場が形成された。

1) 道東海域

(1) 来遊量: 10月上旬の来遊量は、ほぼ前旬並みの水準であった。

(2) 漁場: 10月上旬当初は台風の影響があって出漁船が少なく、漁場は散発的であった。その後主漁場は落石～釧路沖20～60海里付近に形成された。この漁場は、上旬後半には1隻当り平均50トンを上回る漁獲の日が連続出現するなど今漁期最も好漁場であった。一方、襟裳岬南南東～南東方の30～60海里付近にも漁場が形成された。この漁場は主漁場から南西方向への親潮水の差込の方向に沿って移動中の魚群を対象としており、1隻平均10トン前後であった。

(3) 魚体: 魚体組成は、落石～釧路沖の主漁場では大型魚・中型魚・小型魚の割合が3・4・3～3・3・4で比較的大型魚の割合が多かった。襟裳岬沖では大型魚・中型魚・小型魚の割合が2・5・3～2・4・4の群れが多く、主漁場に比べて大型魚の割合が少ないという特徴があった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 10月上旬の来遊量は、散発的な漁場形成を反映し、1999年並みの極めて低い水準であった。

(2) 漁場: 台風通過後の2日に鮫角東60海里付近の表層水温17～18℃の水温帯に1隻1トン前後の漁場が形成された。3～4日は漁場が形成されず、5～6日には鮫角沖50海里付近と黒崎沖40海里付近の18℃前後の水温帯に散発的に漁場が形成された。7～9日には黒崎～宮古沖20～40海里付近とやや南よりに移動して、若干漁模様を上向いたが、漁場形成は散発的であった。

(3) 魚体: 魚体組成は大型魚・中型魚・小型魚の割合が2-5-3～2-3-5で、大型魚の割合が比較的少なかった。

3) 常磐海域

(1) 来遊量、(2) 漁場、(3) 魚体:

常磐海域には10月上旬以降、低水準ながら来遊があると予測していたが、17日までに当業船による操業がなかったものの、10月15日～17日に茨城水試の水戸丸が塩屋崎沖で大・中型魚主体に2.5トン～18.5トンを漁獲し、17日に福島水試のいわき丸が請戸沖にてハイカラ釣りで100尾漁獲している。

これらのことから、常磐海域へは、少なくとも中旬までにはサンマの南下群がすでに来遊していることが確認されていることを特記する。